



道徳だより



能美市立寺井中学校

令和元年 7月19日(金)

NO. 3

◆6月、7月の道徳をふり返って…

心のテーマ：友情・信頼（6月）、役割と責任（7月）

あっという間に1学期もあと数日となり、夏休みが近づいてきました。長い夏休みですが、だらだら過ごすことなく目標と計画をしっかり立てて充実した毎日を送りたいですね。さて、今回の道徳だよりでは、1年生と3年生の6月、7月の道徳の実践の中から、その内容や感想などを紹介します。

◇1年生の実践

「小さなバスケットボールヒーロー」 B(8) 友情

自閉症のマックはコミュニケーションをとることが苦手でしたが、バスケットボールが大好きで高校でもバスケットボール部に所属していました。ただそれは選手としてではなく、マネージャーとしてでした。彼にとって高校最後の試合前、コーチはこれまでチームのために尽力してきた彼を試合に出させたいと提案し、チームメートはそれを受け入れます。試合時間残り4分になり、彼は初めて試合のコートに立ち、チームメートは懸命にパスを回します。それに答えるようにマックはシュートを放ち、最終的に一人で18得点を挙げチームは優勝します。

【生徒の感想】（一部抜粋）

- ・部活の中などで協力する場面があったとき、チームメートのことを想って助け合い、思いやりをもってやっていこうと思った。
- ・友情の力はすごいなと思いました。マネージャーも選手も同じチームメートということを忘れてはいけないと思いました。
- ・マックとチームメートの友情があったからこそ優勝できたと思う。
- ・マックはずっとマネージャーだったけど、最後の試合で出ることが決まってから他のチームメートが点差を広げてマックを出させてあげようとしていたのを見て、友情はすごいんだなあと思いました。
- ・マックは、みんなが自分を信じてくれてうれしいし、同じチームメートという言葉がとても心に残ったと思います。試合には出れなくても、小さなことからコツコツとやることはとても大切だと思いました。
- ・自分はマックのおかげでチームに火がついたんだと思いました。マックのバスケットに対する熱意に心をうたれたんじゃないかと思いました。これから部活動等で陰で支えてくれるマックのような存在の人に感謝していきたいなと思いました。
- ・今から3年間必死にチームのために動いたらいいこともあるし、友情が芽生えて部活がもっと楽しくなると思いました。
- ・友情というものがあってからずっと頑張れたのかなと思いました。みんなと協力することが勝てるコツなのかなと思いました。
- ・自分を認めてくれたことの感謝している気持ちがいいと思った。私も悔いの残らないようにしたい。
- ・みんなに認めてもらえるように自分も部活を頑張ろうと思った。
- ・みんなに認めてもらうことができるとすごいなと思いました。自分も信用され、認められる人になりたいです。

→ 裏面へ続く

◇3年生の実践

「ライバル」 B(8) 友情

仲の良い友である啓介と康夫は水泳においてはよきライバルである。とはいえ、啓介はいつも康夫に勝つことができず二番手に甘んじていた。そんなとき、康夫の病によって啓介にチャンスが巡ってくる。康夫の不幸にほっとしてしまう啓介と、見舞いにきた啓介の言葉に皮肉な返事をする康夫。二人は共に自己の汚れた心に気づき、友情とのほざまで苦悩するが、結果的には二人の絆はいっそう深まっていく。そんな二人の姿を通して真の友情とは何かを考えました。

【生徒の感想】（一部抜粋）

- 部活動の中では、普段はライバルとして高めあっていく存在だけど、団体戦では仲間として戦っていく。ライバルとは、お互いを高めあい助け合える存在なのだった。
- 自分にとってのライバル、そして真の友をこれからも大切にしていきたい。
- ライバルがいると負けたくないという気持ちが強くなって、練習に対する熱量も上がっていく。ライバルと言える存在がいなかったら、今の自分はいないと思う。
- 本当に「いいライバル」といえる存在を見つけるのはなかなか難しいと思う。でも、今のチームの中でも、競い合っただけの高めあう関係になればいいと思う。
- どちらか一方だけが我慢して成り立っているのは真の友情ではないと思う。お互いに言いたいことが言えて、言っているいいことと悪いことの区別がきちっとできる友とのつながりを私は大切にしていきたい。
- 同じ目標に向かって相手とともに戦っていけるような関係が一番いいと思う。
- 相手の弱みを握るのではなく、相手のいいところを素直に認め高め合い、自分のいいところを高めてくれる存在が真の友情だと思う。自分も負けた悔しさのあまりライバルを憎んでしまうことがあったけど、正々堂々闘える存在にしていこうと思う。
- お互い恨みっこなしで、相手が勝っても素直に「おめでとう」と言える存在がライバルでもあり、真の友情だと思う。そういった人を大切にしていきたい。
- ライバルは自分にとってマイナスよりもプラスが多くて初めてライバルと言えると思った。
- ライバルという存在がいることで、自分が成長できるんだということが今回でわかりました。友情に関しても、お互いに信じられる存在であることが改めてわかりました。
- 同じ目標で頑張っている事に関して、どちらかの不幸を喜ぶではなくて、目標を達成するために頑張っていくことが大切だと思った。
- 友達なのに、競い合っただけで順位を決めなければならないのは辛いことだけど、そういった存在がいるからこそ、自分自身の弱さや甘さを感じることができるのだと思った。

